

大月町 事前復興 まちづくり かわら版

頭 集

第 2 号

昨年度に引き続き、令和7年度
第2回ワークショップが開催されました。

2025年7月11日（金）14:00～16:00、頭集老人憩いの家にて事前復興まちづくり計画に向けた地区ワークショップが開催されました。

第2回地区ワークショップでは、「南海トラフ巨大地震が発生した場合」を想像しながら、地区としての復興の方向性や、被災後の多様な住まい方に関する意見交換を行いました。



【地区としての復興の方向性】

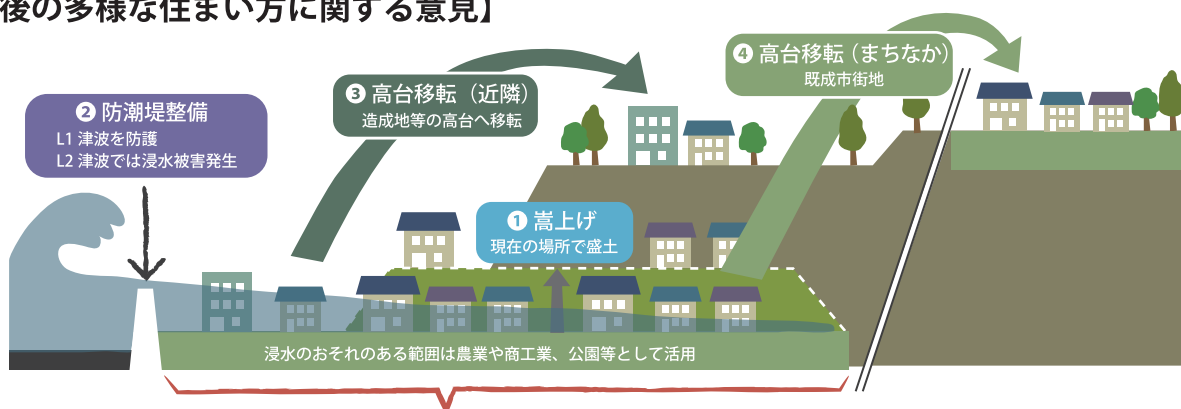
●被災前の笑顔を取り戻すまち

- ・橋の耐震化！落ちないように！
- ・備蓄倉庫もちゃんとできてない。
- ・避難路の電気を明るくして欲しい
- ・木が茂っていたら、ドローンで荷物もおろせん

とにかく防災対策も！

- ・地区内でお店をしている。津波がきたら家と仕事の両方を失う。
- ・津波の心配もあるが、築40～80年の古い家が多く、地震の方が心配。

【被災後の多様な住まい方に関する意見】



居住の制限

浸水のおそれのある区域は居住の制限を検討
※範囲は L1 対応の堤防整備等を踏まえて津波シミュレーションの結果を踏まえて設定

① 嵩上げ

② 防潮堤整備

③ 高台移転（近隣）

④ 高台移転（まちなか）

74世帯
自営業20世帯
農業10世帯くらい
（農地へ高台からも通える）

- ・新しく家を建てる時、土地の造成に支援があるといい

- ・できれば今住んでいる場所の近くに住みたい
- ・新しく家を建てるなら地区内の高台へ新たな土地を整備

- ・頭集の浸水区域外に家を建てるor 公営住宅
- ・旧中学校の活用

- ・周囲に知り合いが多いので、頭集の中で生活を再建したい！（道路、橋をしっかりと！）

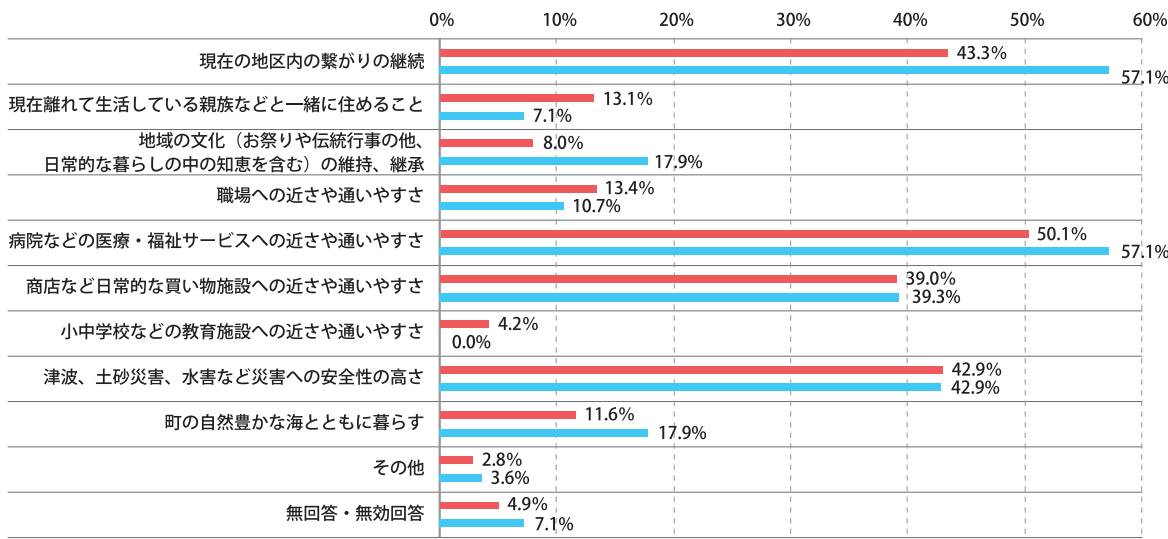
- ・町外で住みたい
- ・買い物をするところが欲しい

- ・今の生活がすでにギリギリ。家賃を払わんといかんのが心配

大月町事前復興アンケート調査を実施しました。ご協力ありがとうございました！

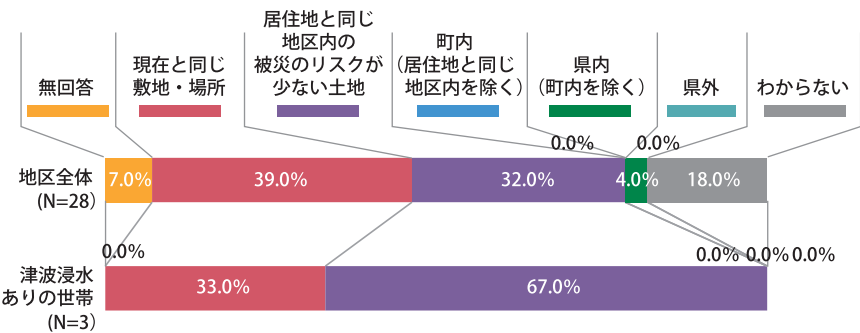
2025 年 8 月 25 日までの2週間、全町民の方を対象に、事前復興まちづくりに関するアンケート調査を実施しました。一部ではありますが、被災後の住まい方に関する質問を中心に地区の回答結果について、共有させていただきます。

●被災後の住まいで重視する内容（地区と町全体での回答を掲載）



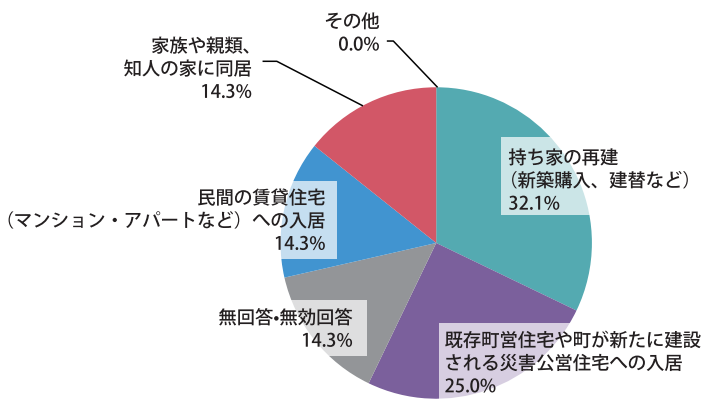
●被災後の住まいで重視する内容について、大月町全体では「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が 50.1% と最も多く、次いで「現在の地区内の繋がりの継続」が 43.3% となった。頭集地区では「現在の地区内の繋がりの継続」、「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が 57.1% と最も多く、次いで「津波、土砂災害、水害など災害への安全性の高さ」が 42.9% となっている。

●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所



●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所について、頭集地区全体では「現在と同じ敷地・場所」が 39%、次いで「居住地と同じ地区内の被災のリスクが少ない土地」が 32% となった。浸水が予想される世帯でも「居住地と同じ地区内の被災のリスクが少ない土地」が 67%、「現在と同じ敷地・場所」が 33% であり、地区内での再建が 100% となっている。地区全体として見ても、居住地と同じ地区内での再建を望む声が多い。

●復興の際の住まいの形態 (N=28)



●復興の際の住まいの形態については、「持ち家の再建（新築購入、建替など）」が 32.1% と最も多く、「既存町営住宅や町が新たに建設される災害公営住宅への入居」が 25.0% となった。